

西郷港周辺地区デザインコンペ2次審査 講評

審査の概要

隠岐の島町西郷港周辺地区デザインコンペには、全国から42作品のご応募をいただくことができました。第1次審査委員会は、令和3年12月19日（日）に開催し、審査の結果、6作品を選考し、第2次審査へ進めることとしました。

第2次審査にあたっては、令和4年1月14日（金）に、6チームの第2次提案者に対し事前説明会を実施し、第2次デザイン案を作成するにあたっての追加要求事項について説明しました。

また、町民の方々や子どもたちの意見を広く集めるために、第2次デザイン案の公開展示を行うとともに、西郷小学校、西郷中学校、隠岐高校、隠岐水産高校などで授業を行い、多くのご意見をいただきました。

第2次審査では、誰でも参加できる公開シンポジウムを開催しました。提案者には、作品のプレゼンテーションを行っていただき、審査員との質疑、来場の方々との質疑を行いました。この様子は、ZoomおよびYouTubeによってライブ中継を行いました。

審査委員会では、公開シンポジウムでの議論や小学校、中学校、高校の生徒たちの意見を参考にしながら、多角的に議論を行い、委員会として推薦すべき最優秀作品および優秀作品各一点を決定し、隠岐の島町に推薦いたしました。

以下、選考の詳細な経緯についてご報告いたします。

令和4年3月6日

隠岐の島町西郷港周辺地区デザインコンペ審査委員長 桑子敏雄

1. 審査委員会までのプロセス

(1) 二次審査事前説明会

事務局から、第1次審査にて選考された6作品の提案者に対し、第2次審査事前説明会を実施しました。説明会は各30分とし、追加要求事項の説明、第2次審査についての質疑応答を行いました。

つぎに、デザイン会議委員から第2次提案に向けての注意点や、留意事項について説明を行いました。

(2) デザインの公開展示

町民から広く意見を求めるために、第2次提案6作品を隠岐ポートプラザ1階に設けたまちづくりコーナーにて公開展示しました。デザインエリアに指定されている地域の住民や事業者のみなさんには、デザイン案の内容について確認をしていただきました。

(3) こどもたちの意見募集

まちづくりの基本理念である「世代をつなぐまちづくり」に向けて、隠岐の島町立西郷小学校の6年生(44名)、隠岐の島町立西郷中学校の3年生(41名)、島根県立隠岐高校1年生(71名)、2年生(51名)、卒業生の有志(20名)、島根県立隠岐水産高校の1~3年生(101名)の生徒たちから計328の意見を頂きました。

こどもたちの意見は審査委員会に紹介し、審査の参考といたしました。

(4) デザインコンペシンポジウムの開催(3月6日(日)9:00~12:40)

提案者によるプレゼンテーションは各チーム20分で、CG映像や模型を使った様々な手法により、作品を説明していただきました。シンポジウムでは、提案者と審査委員、来場者による質疑応答を60分間行いました。また、YouTubeでの全国ライブ配信に加え、Zoomでのチャット質問を受け付けました。

質疑応答では、提案作品に対し、各審査員、来場者から質問があり、提案者が回答しました。また、提案者どうしも熱心に議論を行いました。

(来場者数は44名で、YouTube上では2022年3月6日現在で879回視聴されています。)

(5) デザインコンペ第2次審査委員会の開催(シンポジウム終了後、13:30~15:30)

提案者によるプレゼンテーションと質疑応答を踏まえて、審査員それぞれの専門分野および行政的視点、町民からの視点を考慮し、最優秀作品・優秀作品として推薦すべき作品を選考しました。

審査委員全員が6作品について、もっとも優れていると思われる2作品に投票し、その評価理由を説明し、以下の3作品を選びました。

- ・ 隠岐の島〈アイノマ〉ゲート
- ・ 西郷港ポートキャンパス
- ・ 隠岐うみまち再生計画

次にこの3作品について、各審査員1票ずつ最終投票を行い、最優秀作品および優秀作品を選考しました。

結果は、最も多くの票を獲得した「隠岐の島〈アイノマ〉ゲート」を最優秀賞、次に票の多かった「西郷港ポートキャンパス」が優秀賞としました。

(5) 審査委員会の決定

審査委員会は、最優秀作品を「隠岐の島〈アイノマ〉ゲート」、優秀作品を「西郷港ポートキャンパス」として隠岐の島町に推薦することを決定しました。

(6) 各提案に対する評価の概要

〈1〉最優秀作品の評価の概要

【作品テーマ：隠岐の島〈アイノマ〉ゲート】

海とまちをつなぐ2つの軸線の考え方が明快で、町の基本理念にもしっかり対応している。特に海から大社分院に通じるみちを通すことで、地域の歴史性を感じさせるデザインとなっている。

まちづくりは長期の計画であるという点では、世代をつなぐ考え方や島民、移住者、観光客の3つの属性別の課題にそれぞれ対応できている点がすぐれている。さらに、事業者、現居住者と新居住者を融合する新たな環境づくりによって、まちの賑わいを創出すると期待できる。

また、西郷港周辺地区の位置づけをしっかりと分析しており、対象地域以外にも目配せができています。

追加要求事項にあった「デジタル田園都市国家構想」、「地方創生SDGs」、「脱炭素社会の実現」についてもしっかりと提案されており、国の示す将来の社会のあり方と西郷港周辺の未来が重ね合わせて考えられている。人々の交流空間を実現し、新しい世代にも魅力あるまちを目指す隠岐の島町が選ぶ最優秀作品と評価できる。

なお本作品は、西郷小学校、西郷中学校、隠岐高校、隠岐水産高校の生徒たちからも圧倒的な支持を得ている作品であった。

〈2〉優秀作品の評価の概要

【作品テーマ：西郷港ポートキャンパス】

船待ち交流街区とまちなかくつろぎ街区という大きな区分けによって当該エリアの構造をわかりやすく構成している点がよい。島の大学という仕組みづくりが面白く、色々な世代の人が集まって交流し、まちづくりに継続する学びの空間とすることで、人材育成の場として捉えている点も優れている。

「デジタル田園都市国家構想」、「地方創生SDGs」に対する提案もあり、追加要求事項を踏まえた提案となっている。

一方で、大規模施設は徐々に進めることが難しく、また維持管理にも相当な経費が見込まれる点が課題として指摘された。

〈3〉その他作品の評価の概要

【作品テーマ：隠岐うみまち再生計画】

白い帆を使ったターミナル景観はインパクトがあり、ランドマークという点で評価できる。また、空き家や空き地を活用したまちづくり展開や廃船レストランなど、現在あるものを上手く活かしているといえる。建築的視点から見てもよく考えられている作品であったが、帆の具体的利用という点で、イメージがはっきりしない点が指摘された。

【作品テーマ：みなとまちの記憶を継承し、豊かに住む】

フェリーターミナル前の国道を風待ち通りとして歩行者優先道路につくりかえ、幅員を広くとることで通りに賑わい空間を生み出している。また、原風景を創出した景観は隠岐の歴史性を感じさせる。一方で、まち屋型住居の提案と隠岐の伝統的住居との関係は分かりにくい。また、店舗併用住宅と専用住宅などいくつかの基本型が必要ではないかという指摘があった。さらに、地権者対応として相談窓口をつくるという提案があったが、運営方針の部分で、対応が手薄になっている印象があることから、全体として最優秀作品および優秀作品に及ばないと判断された。

【作品テーマ：隠岐の島の人々が自信に満ち、活気のある日常を育む「しまの広場」】

「海に見える図書室」を含む曲線でデザインされたコアエリアと道路沿いで曲線を囲むような直線に並んだ商店との対比が明晰なデザインとなっている。あえてすべて用意するのではなく、子どもたちが自分で遊び方を決めるというラフな設計は面白い。また、この作品は1次提案において子どもたちから人気の高い作品であった。一方で、海とまちをつなぐという町の基本理念に対する提案が弱いという点が指摘され、全体として最優秀作品および優秀作品に及ばないと判断された。

【作品テーマ：もう少しふくらます】

少しずつふくらますというコンセプトの通り、西郷港周辺地区が徐々に生まれ変わっていく点が面白く、2階からのアプローチも良い。また、海側に荷重がかかるものは管理上望ましくないが、その点において海側に手を加えない実現性の高いデザインと言える。移住者も含め起業、新規事業へのチャレンジが可能な商業空間の展開は新たな可能性が期待できる。一方で、まちの中心を緑地の広場としている点、緑地の維持管理の負担が大きいという点などから、最優秀作品および優秀作品には及ばないと判断された。